

2.3 底質調査・生物調査

(3) 底質調査

干潟陸側、干潟沖側ともにアサリの生息を阻害する値は確認されなかった。

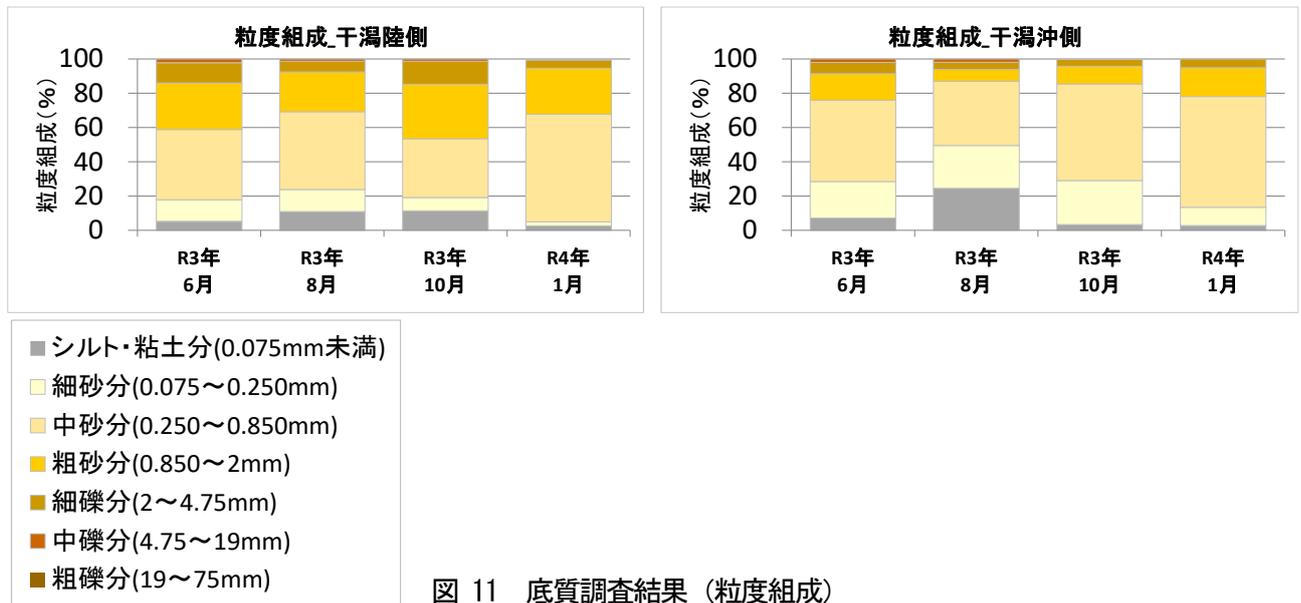


図 11 底質調査結果 (粒度組成)

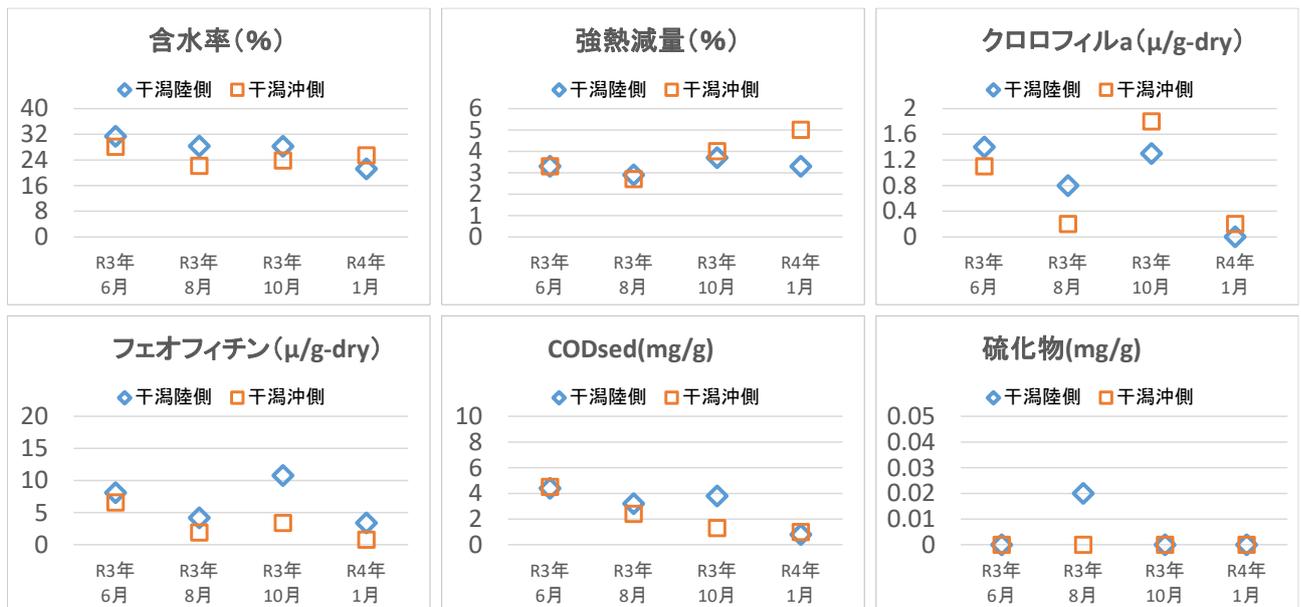


図 12 底質調査結果 (分析結果)

(4) 生物調査

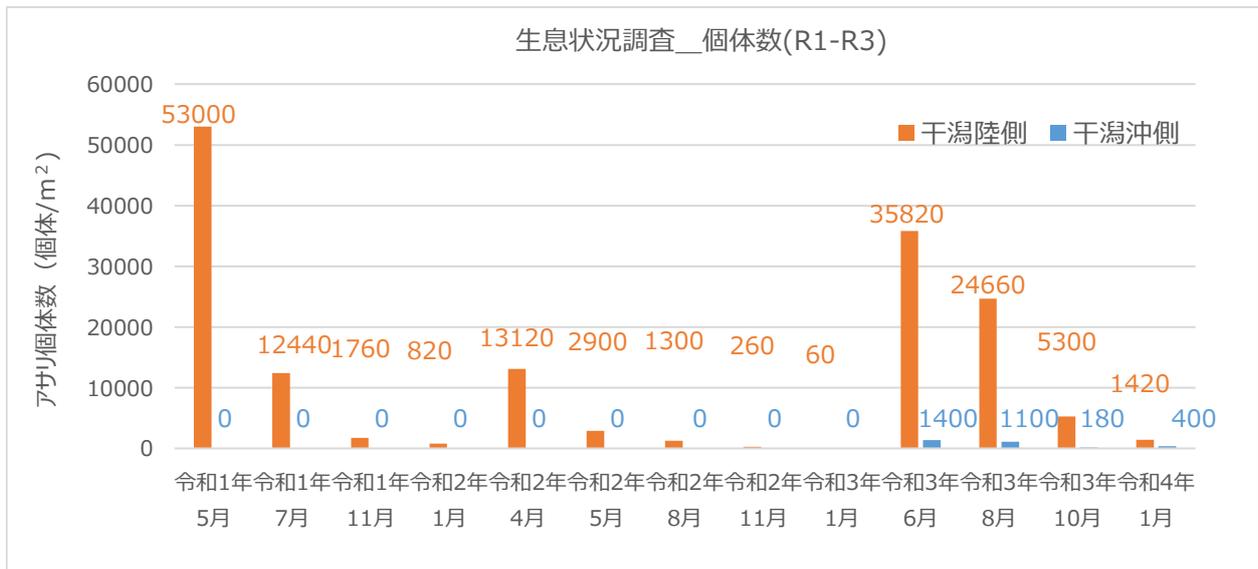
1) アサリ生息状況調査

令和3年度の結果をみると、アサリは6月に干潟陸側で35,820 個体/m²と多く確認され、その後8月以降減少傾向を示し、1月には1,420 個体/m²まで減少した。干潟沖側では令和3年6月に1,400 個体/m²確認されたが、1月には400 個体/m²まで減少した。過年度と比較して、今年度はアサリの冬季にかけてアサリの生息密度が高い傾向を示した。

殻長組成の結果を図 14 に示す。殻長組成の結果をみると、干潟陸側に春季に小型のアサリが確認され、その後8月に12mm 程度、1月に24mm 程度のアサリが確認された。



図 13 生息状況調査結果 (月別個体数)



参考図 生息状況調査 (過年度からの月別個体数)

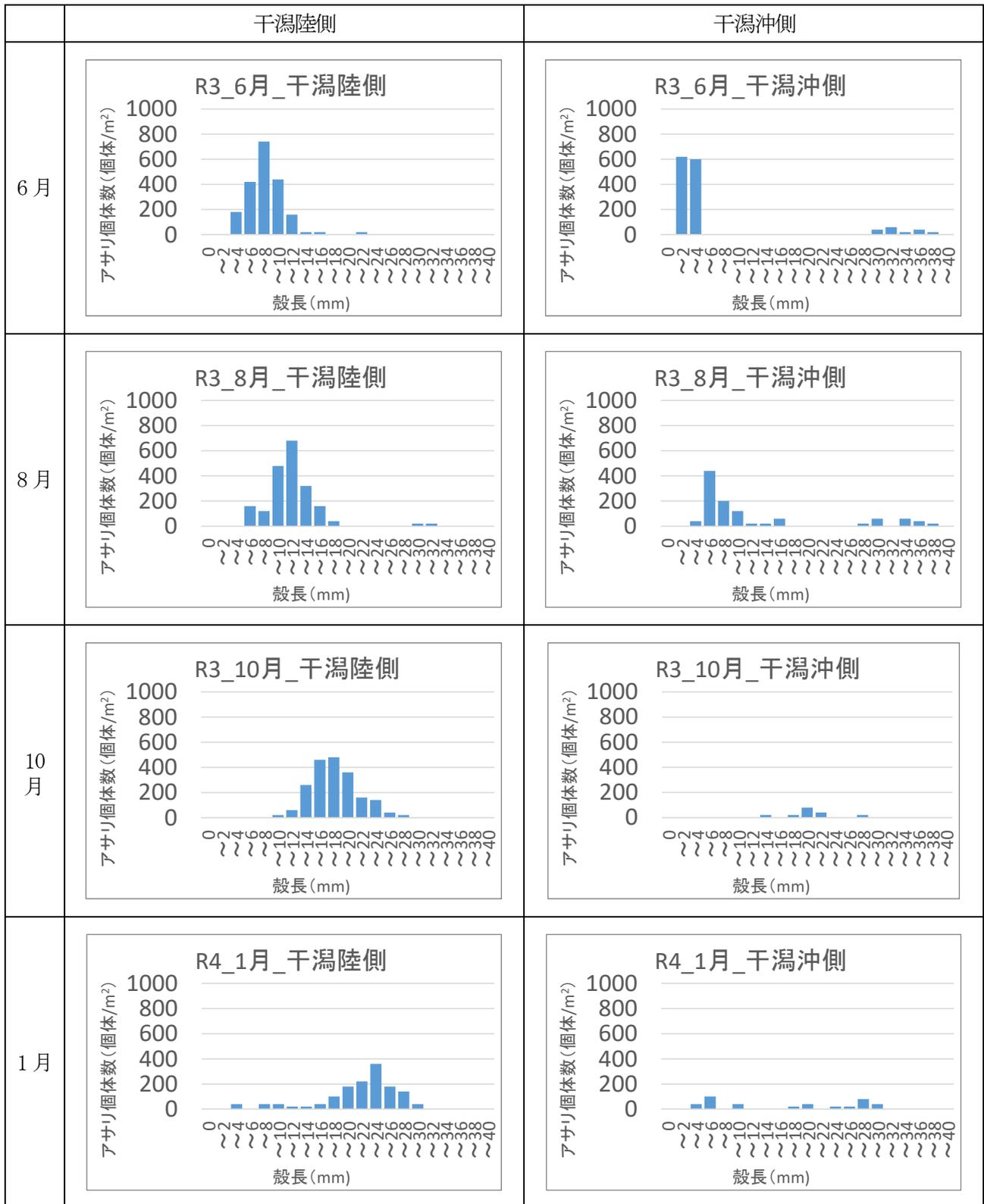


図 14 生息状況調査結果 (月別殻長)

平成31年度（参考）		令和2年度	
—	—	4月	
5月		5月	
7月		8月	
11月		11月	
1月		1月	

注) 沖側は採取数0なので掲載していない。

参考図 生息状況調査結果（殻長組成：干潟陸側）

2) アサリ初期稚貝調査

初期稚貝調査の結果をみると、干潟陸側については、全調査回で初期稚貝が確認され、令和2年12月に最も個体数が多かった。干潟沖側についても同様に、令和2年12月に初期稚貝が最も多く確認された。

過年度の調査結果と比較すると、今年度は干潟陸側、干潟沖側ともに調査開始以来最も多くアサリの初期稚貝が確認された。特に干潟沖側については、干潟陸側と比較してもアサリの初期稚貝が多く確認されており、この要因として、過年度の調査地点よりもやや陸側に調査地点を変更したためと干潟沖側の地盤高が上昇し、アサリの初期稚貝が着底しやすくなった可能性が考えられた。

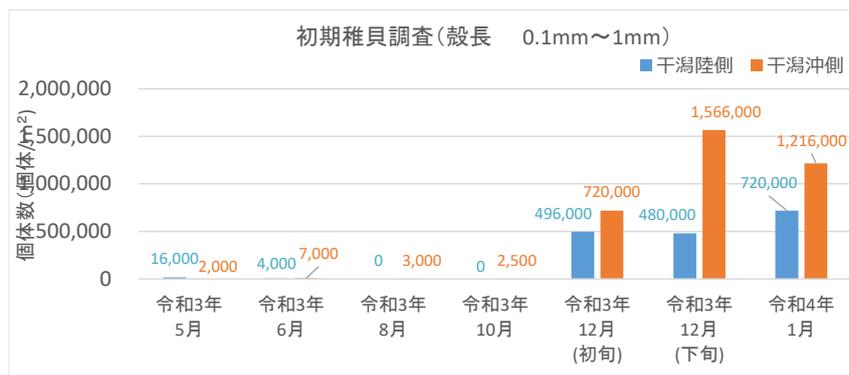
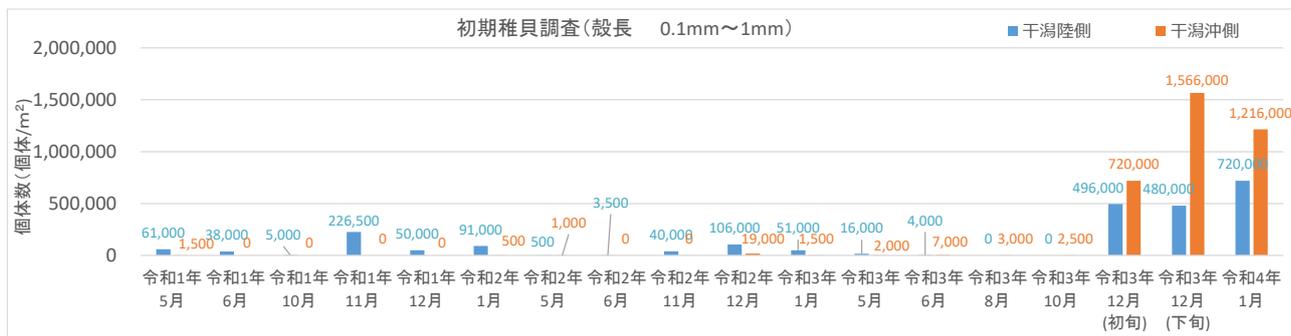


図 15 初期稚貝調査結果 (月別個体数)



参考図 初期稚貝調査結果 (過年度からの月別個体数)